

日本國東北藥科大學
中華民國私立嘉南藥學專科學校
合作協議書

日本國東北藥科大學と中華民國私立嘉南藥學專科學校（以下簡稱兩校）は、兩國文化の交流増進及び兩國民間友誼の増強を圖り、以つて兩校學術發展の促進と人類文明宏揚のため特にこの協議書を定める。

第一條 兩校は上述の主旨にもとずき、兩國の各教育法令、及び各關係官署並びに兩校規定にもとずき日本國東北藥科大學に留學生を派遣、或は相互に學術文化交流のため教職員を派遣することを得る。

第二條 留學生に關する事項は左記の如く定める。

- 1 兩國の各教育法令の規定範圍にもとずき、留學生を派遣する。
- 2 東北藥科大學に派遣する留學生は、嘉南藥學專科學校を卒業した者で毎年十五名以内と定める。
- 3 留學生の入學の手續き及び條件は、留學する國の法律、條例、規則及び大學の學則諸規定並びに國の指導要領にもとづくものとする。
- 4 留學生は大學學則に従ひ學費を納付しなければならない。留學生の日本に於ける生活費及び渡航に要する旅費は各自負擔するものとする。
- 5 留學生の留學期間は大學學則に従いその修學課程によりこれを定める。
- 6 留學生の成績特に優秀と認めたる場合は派遣學校に於いて獎學金を與えて獎勵することがある。

ことがある。

第三條 兩校に於いて必要を認めたる場合、相互に教職員を派遣し以つて兩校文化發展を圖る。教職員派遣に要する費用は兩校相談のもとにこれを定める。

第四條 兩校に於いて出版せる書籍雜誌は常時これを交換し、兩校の學術研究の増進に努めることとする。

第五條 本協議書に於いて規定せざる其他合作事項は必要を認めたる場合は兩校相談の下にこれを定める。

第六條 留學のための出入國に關しては、留學生自身の正式な手續によることとする。

第七條 本協議書は、西曆一九六八年七月一日より效力を生じ、若し一校より解約を要求せる場合、解約要求提出日より一年後に於いて本協議書は效力を失なうものとする。但し、すでに留學中の學生がある場合には、當該修學課程修了までは當該學生を解約前の條件で取扱うこととする。

第八條 本協議書は、日本、中華民國兩國文字で一式二部ずつ作成し兩校で各一部を保管するものとする。

日本國東北藥科大學理事長・學長 高柳 義一
中華民國私立嘉南藥學專科學校長 鄭 英傑

日本昭和四十三年七月一日
中華民國五十七年七月一日

印

西曆一九六八年七月一日

傑

日本國東北樂科大學 合作協議書
中華民國私立嘉南樂學專科學校

日本國東北樂科大學與中華民國私立嘉南樂學專科學校（以下簡稱兩校）為增進兩國文化交流及加強兩國民間之友誼，促進兩校學術發展與宏揚人類文明起見，特訂立本協議書：

第一條：兩校基於上述宗旨，依照兩國教育法令及各有關政府機關與兩校之規定，得派遣留學生赴

日本國東北樂科大學進修或相互派遣教職員以增進學術文化之交流。

第二條：關於留學生各項規定事宜如左：

一、應依照兩國教育法令所規定之範圍派遣留學生。

二、派赴日本東北樂科大學之留學生，應在嘉南樂學專科學校畢業，其人數每年定為十五人以內。

三、留學生入學手續及其條件，須依照留學國之法令、條例、規則及大學學則規定與政府指導要領為依據。

四、留學生應依照大學學則繳納學費，留學生在日本國之生活費及往返旅費，概須自行負擔。

五、留學生之留學期限，依據大學學則之規定視其修業課程定之。

六、留學生之成績特別優良時得由派遣學校發給獎學金以資鼓勵。

第三條：兩校認為必要時，得相互派遣教職員訪問，以謀兩校文化發展，派遣教職員所需經費，由兩校另行商定之。

第四條：兩校所出版書籍或刊物經常交換，以增進學術上之研究發展。

第五條：本協議未經規定之其他合作事項，必要時由兩校商定之。

第六條：留學生之出入境手續，由留學生本人正式辦理之。

第七條：本協議書自西曆一九六八年七月一日起生效，如有一校要求解約時，自解約提出之日起一年後本協議書自動失效。但尚有未畢業留學生時，得適應解約前之條件使其修畢應修課程。

第八條：本協議書以日本國及中華民國兩國文字作成一式兩份，由兩校各執一份為憑。



日本國東北樂科大學校長、
中華民國私立嘉南樂學專科學校校長

高柳義一
鄺英傑



日本昭和四十三年七月一日
中華民國五十七年七月一日

即 西曆一九六八年七月一日